

第1学年通信

第3号
5月2日発行
文責：水澤 秀

宿泊研修ではご心配をおかけしました

4月26日～28日、2泊3日の日程で宿泊研修を実施しました。この研修では、直前になって、私をはじめとした多くの教員がコロナに感染してしまい、引率団を大幅に変更する事態となってしまいました。さまざまな点で、生徒・保護者の皆様に多大な不安を抱かせることになってしまったことを、ここに深くお詫びいたします。

また、感染対策には十分留意して旅行を実施いたしましたが、残念ながら旅行中に体調を崩す生徒も出てしまいました。迎えに来ていただいた保護者の方々に感謝しますとともに、重ねてお詫び申し上げます。

今回の宿泊研修については、さまざまなご意見があろうかと思います。生徒の健康を考えれば、当然「中止」という選択肢もあり得ました。しかし、生徒の中にはほとんど体調不良者がいないにもかかわらず、教員側に感染者が出たという理由で、生徒の貴重な体験の機会を奪うことはできないと、学校では判断いたしました。

実施するにあたっては、引率できなくなった1学年教員に代わって、他学年団から担任・副担任関係なく応援に駆けつけてもらい、まさに全校態勢で不測の事態に対応する形をとりました。至らぬ点は多々あったとは思いますが、それもこれも、中学時代の3年間をコロナとともに過ごしてきた1年生に、新たな、そしてリアルな人間関係を築いて、N高での高校生活を始めてもらいたいという強い願いからであることを、皆様にご理解いただきたいと思います。

子どもたちは日々成長しています

引率団の突然の変更といった事情により、当初予定していたプログラムから多くの変更がありましたが、そのような状況の中で、生徒たちは落ち着いた行動ができていたと報告を受けています。

集団行動の中では、一人一人がわがままや自分勝手な気持ちを抑えなくてはなりません。また、新しい人間関係を築くためには、相手に気を遣い、思いやりをもって接する必要があります。家庭の中では好きなようにふるまい、SNSの中でのやりとりを“普通”と感じている子どもたちにとって、言葉遣いに気をつけたり、布団の上げ下げをしたり、風呂場の忘れ物を確認したりといった、細かなことの一つ一つが、とても大切な勉強となったはずです。

もちろん、小さな失敗はいろいろとあったようですが（それも勉強です）、ほとんどの生徒たちは、きちんと考え、協力し合いながら、明るく元気にこの研修を乗り切っていたとのことです。生徒たちにとって、この経験が今後の大きな糧となってくれることを願ってやみません。

また、残念ながらこの研修に参加できなかった生徒たち、途中で帰宅せざるをえなかった生徒たちに対しても、これからさまざまな体験をさせながら、成長への手助けをしていきたいと思っていますので、今後とも保護者の皆様のご協力をお願いいたします。